

# アザレアのまち音楽祭2013

## マトリックス評価表

ミ	理想追求型		理想的ゾーン	
ッ	⑦	⑧	⑨	⑩
シ			⑧	⑨
ヨ	⑤	⑥	⑦	⑧
ン		⑤	⑥	⑦
↑	④		⑤	⑥
↓	③	④	→経済尺度	
			④	⑤
	①	②	③	④
	①	①	②	③
	最悪ゾーン		利益追求型	

(縦軸は定性評価 横軸は定量評価)  
演奏レベルの高さ 観客動員数  
①~⑩の番号は評価点。最高は⑩

## マトリックス評価表

ミ	理想追求型		理想的ゾーン	
ッ	⑥	⑦	⑧	⑩
シ	⑥	⑥	⑦	⑨
ヨ	⑤	⑥	⑥	⑧
ン	④	⑤	⑤	⑦
↑	④	④	⑤	⑥
↓	③	④	←	→経済尺度 ⑤
	③	③	③	④
	②	②	③	④
	①	①	②	④
	①	①	②	③
	最悪ゾーン		利益追求型	

(縦軸は定性評価↑ 横軸は定量評価→)  
演奏レベルの高さ 観客動員数  
①~⑩の番号は評価点。最高は⑩

評価の仕方⇒プログラム構築・演奏のレベルによって総合的な評価を縦軸で観客動員数の基準に照らし評価

- サロンの基準値は 70 人
- 小ホール基準値は 200 人
- ホールの基準値は 700 人

オープニング・ナイトガラ・コンサート 入場者数 32(36)

○	

[コメント/10, 8, 6, ディレクター評価 5点]  
オープニング・ナイト・ガラは、まだまだ馴染がないようです。内容はバラエティに富んだものであり、オープニング・ナイトでなければ実現しない公演だったと思います。

もっと多くの人に来ていただくことを考えましょう。  
新田さんのピアノ曲(オープニング)の解説があり、分かりやすいと思う。

【オープニング・コンサート】 入場者数 766(640)

	○

[コメント/9, 10, 9, 10, ディレクター評価 9点]  
アンケートの回収率が 30%に迫り、尚且つ好評であった。今年のオープニング・コンサートは、アザレアのまち音楽祭始まって以来の大入りとなりました。今回のコンサートで圧倒的な高評価をいただいたのは、ショパンのピアノ協奏曲です。多くの皆様から賛辞をいただき、音楽鑑賞の耳が熟成されてきたと喜んでます。「素晴らしい音楽は、素晴らしい聴衆によって育まれます。」

過去最高の大入りとなり、演奏レベルもかなり高く、満足いく出来だった。あと一歩、緻密さが欲しい。  
来年はもっと積極的にPRしましょう。

【佐々木まゆみソプラノ・コンサート】 入場者数 89(96)

	○

[コメント/7, 7, ディレクター評価 8点]  
プログラム編成に工夫がいたると感じました。何事も腹八分と言いますが、今回のコンサート構成は腹六分という感じで、個性に合致した曲を聴かせて欲しいものです。

語りが多すぎる。練習不足か?曲数をもっと多く。

【アザレア弦楽カルテット・コンサート】 入場者数 69(69)

	○

〔コメント／8, 8, ディレクター評価7点〕

このグループのデメリットは、メンバーの入れ替わりが数年ごとにあることです。そのため、一定のレベルには到達していますが、一進一退を繰り返していると指摘されます。この評価は、かなりシビアな指摘であり、アマチュアとしては悩ましいところです。アーティキュレーションの不揃いや、フレーズの滑らかなつなぎは、阿吽の呼吸が必要であり、一年や二年のアンサンブル体験では得られません。

【パープルタウン・コンサート】 入場者数 200(300)

	○

〔コメント／9, 8, ディレクター評価5点〕

今年の吹奏楽は、河北中学校と倉吉東中学校が学校行事のため不参加となりました。そのため、合同合奏は数曲にとどめ、学校ごとのステージ演奏が中心となりました。そんな中で異彩を放ったのが、赤碕中学校の演奏でした。

倉吉民踊の会の皆さんによる民踊は、艶やかであり若さを感じさせるものでした。

【山城裕子ピアノ・コンサート】 入場者数 86(85)

	○

〔コメント／7, 10, ディレクター評価9点〕

とても不満とお書きになった方がありましたが、音楽は聴く人の感性を映す鏡ですので、人によって様々な感想はあるものです。

【鶴崎千晴メゾソプラノ・コンサート】 入場者数 117(88)

	○

〔コメント／8, 10, ディレクター評価8点〕

童謡の歌い方、山田耕作のアーティキュレーション、木下牧子のドラマティコなど、日本語の発声法をうまく歌い分けていたのが特筆に値しました。

今年は、日本の歌ばかり。最後の一曲はオペラを聞きたかった。

【光長真理恵ソプラノ・コンサート】 入場者数 89(82)

	○

〔コメント／8, 9, ディレクター評価9点〕

今回のコンサートで、新しい境地を切り開いた感のあるピアニスト「面谷真理子氏」の努力と力量の高さに、感動しています。

特に一部の二曲が素晴らしく、プログラム作りに新しい方向を聴かせていただいて、一番印象深い。(全体で)

【吉田明雄ヴァイオリン・コンサート】 入場者数 297(215)

	○

〔コメント／9, 10, 評価8点〕

倉吉未来中心小ホールがいっぱいになりました。ピアノとのアンサンブルは見事だった。

素晴らしい。

【野津美和子ソプラノ・コンサート】 入場者数 34(31)

○	

〔コメント／4, 7, ディレクター評価6点〕

大変、秀逸な演奏家だと皆様にご推薦いたします。集客の工夫を!

【曾田千鶴ヴァイオリン・コンサート】 入場者数 54(0)

○	

【コメント／7, 8,                      ディレクター評価 5 点】  
とても清楚な音楽づくり。音楽の完成度を高めています。

ヴァイオリンが主なのに、ピアノがひびきすぎ。

【ブレーメン・コンサート】                      入場者数 90 (✓)

	○

【コメント／ 7, 6,                      ディレクター評価 5 点】  
今回のように小さな室内での演奏も、なかなか味わいがあった。

【加藤文女ピアノ・コンサート】                      入場者数 54 (✓)

○	

【コメント／7, 6,                      ディレクター評価 6 点】  
大変充実した演奏になっていた。

【西谷友里サクソフォン・コンサート】 入場者数 71 (✓)

	○

【コメント／7, 8,                      ディレクター評価 5 点】  
まだ、発展途上の演奏だと思いました。今後が楽しみ。

【重道博世ピアノ・コンサート】                      入場者数 67 (✓)

	○

【コメント／7, 8, 7,                      評価 6 点】  
テクニックがしっかりしており、安心して聴くことが出来た。しかし、発展途上の演奏だと思いました。

集中力の途絶える場面あり、少々準備不足? 今後に期待したい。

【鳥取雅友会雅楽演奏会                      入場者数 79 (63)

	○

【コメント／8, 8,                      ディレクター評価 7 点】  
手慣れた演奏です。今後は何をどのように聴衆に訴えかけるかの分析から、演奏計画を立ててほしいと思いました。

【小椋美香子ソプラノ・コンサート】                      入場者数 47 (✓)

○	

【コメント／4, 9,                      ディレクター評価 6 点】  
無伴奏の歌曲は、大変珍しいプログラムです。現代の日本歌曲の中でも異色のものです。

【小椋順二ホルン・コンサート】                      入場者数 67 (45)

	○

【コメント／8, 10,                      評価 9 点】  
今回のホルンは、後半で新しい響きの音楽を聴かせていただきました。アザレアのまち音楽祭でなければ体験できない秀逸な演奏だったと感服しました。

【西本江里ソプラノ・コンサート】入場者数 203 (118)

	○

【コメント／7, 10,                      ディレクター評価 8 点】  
今回のコンサートは、ピアノを担当された山本亜美氏が、バランスの良い素晴らしい音楽を紡ぎ出していたことが光りました。

響きのよいカウベルで、良い演奏会。一部より二部の声ののって良好。

【佐々木道也クラリネット・コンサート】 入場者数 136 (104)

	○

〔コメント／8, 10,                   ディレクター評価 9 点〕  
 佐々木氏のクラリネットは、とても安定してきました。  
 若いころのエネルギーが甦りつつあるようです。

【杉山清香クラリネット・コンサート】 入場者数 54 (54)

○	

〔コメント／9, 8,                   ディレクター評価 8 点〕  
 オーソドックスな演奏だったと思います。

【サロンオペラ「河童譚」】 入場者数 67 (✓)

○	

〔コメント／7, 8,                   ディレクター評価 8 点〕  
 西岡千秋氏の演出の良さが光った公演となりました。  
 ベテランの歌手たちの新鮮な歌唱に驚きました。  
 一部・二部とも、それぞれ楽しかった。(宣伝が足りな  
 かったかな?)

【村岡苑子チェロ・コンサート】 入場者数 121 (78)

	○

〔コメント／8, 10,                   ディレクター評価 10 点〕  
 聴衆の皆様の、満足度の高いコンサートであった。昨  
 年と比べて、ボーイングが一段と安定し、この一年間の  
 成長速度の速さに、びっくりです。  
 来年も!

【木村恵理ファゴット・コンサート】 入場者数 44 (34)

○	

〔コメント／8, 7,                   ディレクター評価 7 点〕  
 擦弦楽器(擦って音を出す)の特性を、全く音の出し方  
 が異なる吹奏楽器(特にダブルリード)に置き換えるのは、  
 生易しいことではありませんし、ほとんど不可能です。

【逸見康孝ヴァイオリン・コンサート】 入場者数 78 (121)

	○

〔コメント／6, 9,                   ディレクター評価 9 点〕  
 ベリオの作品を2曲もプログラムに入れるには、聴衆  
 にとって無理があったのかもしれない。  
 現代曲は理解し辛い。アンコール曲「耳なし芳一」珍  
 しい音でした。

【吉田章一バリトン・コンサート】 入場者数 63 (36)

○	

〔コメント／ 9, 7, 9,                   評価 8 点〕  
 第一部のヴォルフは圧巻であり、大変レベルの高い演  
 奏だったと思います。山陰地区でこれほど深い表現ので  
 きるリート歌手はいないでしょう。  
 素晴らしい歌唱力で、安心して楽しめた。

【ファイナル・コンサート】 入場者数 553 (523)

	○

〔コメント／10, 10, 4, 9,                   評価 8 点〕  
 小学生の合唱は、とてもよく練られており、優れた演  
 奏だったと思います。指揮される先生の音楽づくりの姿  
 が明確で、子供たちの音楽に反映して素晴らしい合唱に  
 なっていました。願わくは、ピアノ伴奏にも反映させて  
 いただきたかった。大人の合唱団のような優れたバラ

ス感覚までは期待しませんが、子供たちの合唱を支える音楽的なピアノを演奏するよう心掛けてほしいと思いました。

西岡千秋氏への賛辞を多く戴きました。とても素晴らしい演奏だったと思います。特に、河本緑石の詩に、山本喜三氏が曲をつけた「高原の秋」は見事な演奏でした。

どの団体も、それぞれに素晴らしい歌を歌っておられ、合唱の祭典に相応しいファイナルとなった。二部も満足。二部は気持ちよく聴け。西岡さんの世界。

## 総合的な評価

理想追求型 ゾーン 9公演 33%	理想的 ゾーン 17公演 63%
最悪ゾーン	利益追求型 ゾーン 1公演 4%

アザレアのまち音楽祭は経済尺度を横軸にし、音楽的なミッションを縦軸にして評価している。音楽祭が目標としている「理想的ゾーン」に入るコンサートが63%、「理想追求型ゾーン」に入るものが33%、「利益追求型ゾーン」に入るもの

が4%であった。

今年度の音楽祭での最大の問題点は、全体的な観客動員数は個々のコンサートでは伸びたが、そのコンサートで経営的に赤字を出してしまったという大きな問題が残った。

その要因は、観客動員数が足りない催しが33%もあったことに尽きる。もう一つの問題は、全入場者数に対する、招待チケットの占める割合が28%と高すぎることである。音楽祭も32回を迎える来年度には、啓発の方法を再検討する必要がある。しかし、赤字額はまだまだ些少であり、全般的には影響は少ないが、運営組織体に油断が生じていることは確かである。

アザレアのまち音楽祭は赤字を出さないことが是であり、組織のタガを外してはならない。昨年度は、多額の助成金(90万円)があったが、それは周年事業としての特別支援であった認識が薄かったことは確かであり、積極的なスポンサー依頼活動、協賛者依頼活動が停滞したことが、経済的問題の要因であった。ちなみに、昨年度のスポンサー数は31件、今年度は25件である。協賛は昨年、162件、今年度が153件と減少している。金額的には345,000円のマイナスであり、赤字額をカバーするものです。次年度は、実行委員一人一人が、更なる意欲と努力が必要だと総括したい。

コンサート内容については、概ね良好であった。

アンケート調査では、相変わらず女性客が74%とであった。年齢層では、70歳代以上が35%と高く、続いて60歳代も31%と高く、60歳以上を合わせると66%となり、リタイヤ層が顧客の中心になっていることが分かる。そして50歳代が16%と続き、後は数パーセントずつとなっている。この傾向は近年みられるが、若者のクラシック音楽離れとも考えられる。

コンサートの満足度については、大変満足が69%、満

足が30%であり、高い評価をいただいている。コンサート様式について、ポピュラー音楽の導入を希望される方が33%もあったことは、今後考慮する必要があるようです。アザレアのまち音楽祭の特徴である地元在住の音楽家の招聘について、中央からの招聘を望む方が44%もありますが、この問題は大変悩ましいところです。中央からの招聘は、交通費だけでもお一人10万円近くかかりますし、ギャランティを考えると、現在のアザレアのまち音楽祭の経営規模では不可能に近いものだと思います。料金設定も現状維持を望まれる方が67%もある中で、値上げは不可能です。音楽祭経営の原資が豊かであれば可能ですが、現状の入場料設定では絶望的です。そのようなコンサートは、豊かな県費を使って運営している県文化振興財団に頼るしかないでしょう。しかし、県内出身の演奏家については、年次的な計画を立てることによって、ある程度可能かもしれません。次年度以降の課題にしたいと思います。

## 実行委員のコメント

半数が招待客とはいえ、オープニングは大入り、ファイナルもまずまずの入場者で音楽祭への関心や、周知度が高まってきていると感じます。サロンにもファンが定着し、演奏レベルも安定した水準のコンサートが多くなってきました。素晴らしいことです。ただ、経営面は、難しく、協賛者や、新しい聴衆、若い人を増やす努力がまだまだ必要だと思います。

ガラに参加をもっとPR。オープニングで沢山の人に来てもらおうと、その勢いで多くの人に来られるので、NHKに来年もPRさせてもらおう。ただ券はあまり多く出さないようにして、入金を増やすようにする。協賛者を30人~50人(一人当たり1~2名)増やす運動を今から取り組むのはどうでしょうか?

練習(自分の団体)も忙しく、木曜日はダブっていて、回数9回しか客になれなかった。印象深いのは、光長さんの一部の二曲。彼女の姿勢(挑戦)を感じて(私にわかりやすく)拍手。